

フット0を絡めた3日間イベントとすることで多くの人
がトレイルオリエンテー
リングに参加した。

2013年11月2日(土)
岐阜県各務原市 木曾三川公園
第9回全日本トレイルオリエンテー
リング選手権大会



難問続出。好天に恵まれた大会。

パラリンピッククラス E

1	森 長三	長崎県 TOA	11p	162s
2	高橋義人	多摩 OL	11p	190s
3	高柳宣幸	港南 OLC	7p	232s

オープンクラス E

1	小泉辰喜	東京 OLC	22p	90s
2	木村治雄	入間市 OLC	22p	92s
3	山口拓也	浜松 OLC	21p	69s
4	吉村年史	北九州 OLC	21p	83s
5	田中 徹	京葉 OLC	21p	99s
6	杉本光正	EC 関東	18p	54s



Eクラスのタイムコントロール



オープンクラス選手権者 小泉辰喜(東京 OLC)

王者は小泉辰喜

2013年度の日本選手権者に輝いたのは小泉辰喜だった。タイムコントロールを含む23の課題が出された中で正解は22問。同じく22問正解の木村治雄とタイムコントロールでの秒差で勝負を分けた。

オープンクラス E の上位はトレイル0の日本代表選手級がずらりと名を連ねる。難問揃いの大会だったが、さすがにベテランは点数を揃えてくる。

久々のトレイル0

今回筆者・木村佳司は久しぶりにトレイルオリエンテーリング大会に参加した。今までに経験したことのない難易度の高い競技会だった。というも

参加コースは A クラスであったが、設問のほとんどが全日本選手権の E クラスと共通となっており、容赦ない厳しい設問に苦勞した。

制限時間120分のうち119分30秒を使ってコースを回り、残り秒数を見ながら走ってフィニッシュした。

それにも関わらず結果は惨憺たるもの。あの設問でほぼ満点を叩き出す人たちがいることが信じられない。



理学のトレイル・工学のフット

以前から感じていたトレイルオリエンテーリングの特性を、今回あらためて感じるようになった。「トレイルオリエンテーリングは理学である」

トレイルオリエンテーリングは地図表現と現地を対比させ、時間をかけて理詰めで設問を解いてゆく競技だ。解答にかかるプロセスと判断が重要で、そのプロセスを如何に発想できるかを競い合う。そう、理論が大事なのだ。



トレイルOで答えを決定する瞬間(パンチ)間違ってももう変えられない

フットオリエンテーリングは違う。コントロールに到着する時間を競うのがフットオリエンテーリングである。

そこではプロセスの正しさは求められない。結果に到達するまでの時間が短ければそれが正義なのだ。

正確な思考プロセスでもOK。第六感でもOK。経験則でもOK。理論的なプロセスではなく統計的手法でもOKなのだ。しかもプロセスだけでなく、パワーと速さに物言わせて、細かいところはカバーしてしまうということもできる。この手法は工学的ともいえる。

「フットオリエンテーリングは工学である」

メーカーで工学の思考プロセスを日々使っている筆者にとって、トレイルオリエンテーリング上位への壁は高い。



遠くに見えるフラッグと地図を照合



時間をいっばいに使って難問に挑む



車椅子競技者の移動にはヘルパーがつく。

人を集める工夫

トレイルオリエンテーリングはマニアックな競技である。日本選手権大会ともなればマニアック度もさらに上がるというもの。今の日本ではトレイルオリエンテーリングの単独イベントではなかなか多くの参加者が望めない。

しかし今回のイベントは人を集める工夫が成功し、会場は多くの人がトレイルOを楽しんだ。

その工夫とは、トレイルオリエンテーリング終了後に同じトレインでフットオリエンテーリングのレースを行ったこと。同じトレインで同じ地図というとスプリント競技を想像するが、今回はあえてミドル競技とした。

11月2日に行われた本大会、翌日の愛知 OLC 大会、翌々日の全日本ミドルオリエンテーリング大会と、この3連休はミドルオリエンテーリングしぼりのコンセプトで多くのフットオリエンテーリング愛好家を呼び寄せたのだ。

さらに地元の東海中学校・高校の大量参加もあった。

こうした企画努力の甲斐あって、女性や若者を含む多くの参加者が、トレイルオリエンテーリングにも参加した。

広大な河川トレイン

競技場所となった木曽三川公園かさだ広場は、木曽川の河川敷に広がる平地林である。基本的には平地であるが微地形がいたるところに存在する。昔は洪水域だったようで公園として開発されたのも新しいようだ。

フラットな中に遊歩道が整備されており、車椅子での移動も容易である。トレイルオリエンテーリングにはぴったりのトレインだ。

このトレインに惚れ込んだ山口尚弘氏が今回のイベントを企画したことで実現した。

かさだ広場のトレインを一度走ってみたいと思っていた筆者・木村もこの企画に誘われて、トレイルオリエンテーリングとミドルオリエンテーリングを楽しませていただいた。

企画がイベントを成功へと導いた良い例だった。

(木村佳司)



トレイルOのスタート